





## STORY

主人公アサヒは、防衛都市『アスガルド』に住む青年。  
『運命』の女神の名を冠した祖母の店『Norn's Dine』を受け継ぎ、その腕の良さと人当たりの良い性格で巷でも評判の料理人として日々を過ごしていた。

黄昏に向かう斜陽の世界にあって、一日一日を懸命に生きる人々の食欲に応えるため、明日を生きる活力のため……  
その腕を振るって料理を作る日常は様々な『運命』を持つ者たちとの出会いによって少しずつ形を変えてゆく。

時に否定し、時には受け入れることで  
世界と同じく停滞していた『運命』の歯車は巡り始める。  
これは、ノルンズダイニング『運命の食卓』でアサヒが会う者たちとの『運命』と絆の物語。



## WORLD

『運命』の女神ノルンが創り出した世界。『ノルディア』。

『ある時』より世界の停滞と荒廃が進み、魔獣が跋扈する中で人類に残された土地はわずかとなっていた。

そして世界は、神が見捨てた地と呼ばれるようになる。  
そんなノルディアに存在する防衛都市『アスガルド』。  
北限の地にあるその都市は、人類の生活に必要な魔導石の採掘地であり、人類と魔獣の戦いの最終防衛ラインでもあった。

『運命』の女神が創り出した世界に生きる人々は、生まれいでた時から何らかの『運命』を与えられ、それを知ることなく日々を生きている。  
ただ一人、定められた『運命』を持たない青年以外は……。それは女神の祝福か、それとも呪いか、全てを知るのは沈黙を続ける女神だけであった。

## II. 日常パート



主人公を取り巻く様々なキャラクターたちと共に過ごす日常パート

お気に入りのキャラクターの思わぬ一面を見ることも!?

## III. 接客パート

アサヒが営む料理店『Norn's Dine』には様々なキャラクターが訪れる。お気に入りのキャラクターを選択して、会話を楽しむことで好感度がアップ!

会話中の選択肢による好感度の変化はなし! 様々な会話を楽しもう!



## IV. 固有 EP パート

キャラクターの好感度を高め、絆を深めていくと、キャラクターの固有エピソードが発生!

エピソードが進むとアサヒとキャラクターは更に親密な関係に!



# SYSTEM

## I. ゲームについて

ストーリーを読み、選択肢を選んで好感度を高めていく、オーソドックスなノベルゲームスタイル。

日常パートと接客パートを繰り返して、お気に入りのキャラクターの好感度をあげていこう!



## ▼ 体毛切替

体毛が苦手な方にも楽しんでいただけます!

※体毛オフはスチル時のみです。また、全ての体毛がなくなるわけではありません。



ON

OFF

## V. 固有スチル解放

キャラの固有エピソード内ではストーリーと共にスチルを楽しめる!

好感度が深まるにつれて、スチルの内容もえっちなものに♡



# Rita

リト

年齢 20歳 種族 獣人(犬)

瞳の色 水色

職業 店員さん

武器 笑顔っす！

身長 190cm 体重 100kg

好物 オムライス

苦手 空腹



スラム育ちの大型種の犬獣人。  
穏やかで優しい性格ゆえに、心身ともにぼろぼろだったところをアサヒに救われる。

『ノルンズダイн』で接客や調理を担当しており、いつも笑顔のムードメーカー的存在。

大柄な体躯、戦いに向けた大型種の獣人という恵まれた条件を持ちながら、争い事が苦手な自分に小さなコンプレックスを持つ。

『無垢』の運命と共にある者

無垢：潔白で純真なこと。

Illustrator：かうべる牛頭夫

「……俺、あのときアサヒさんのオムライスを食べたから、今ここにいられるような気がしてるッス」

# Asahi

アサヒ

年齢 23歳 種族 人間

瞳の色 朱

職業 料理人

武器 短剣

身長 175cm 体重 72kg

好き 料理で笑顔になってもらうこと

苦手 人に触られる事



『ノルンズダイн』という祖母の料理店を受け継いだ青年。

その料理の腕前は、かつての常連も認めるほどで『アスガルド』の中でも評判の店となっている。

お人好みな性格だが、自分の信念を曲げない頑なな面も持つ。

誰からも好かれる容姿と性格だが、特定の『誰か』を作ること无意識に避け、恐れている部分がある。

定まらぬ運命

Illustrator：はいき

「俺は料理が好きなんです。俺の料理で、誰か一人でも笑顔になってくれれば……それで十分かなって」

# Grant

## グラント

年齢 36歳 種族 魔人

瞳の色 黄緑

職業 ギルドマスター

武器 拳・魔眼

身長 188cm 体重 95kg

趣味 香水集め

苦手 同族の面汚し

冒険者ギルドのマスター。若い頃は、自身も腕の立つ冒険者で、フレデリックは古い友人。

魔人という特殊な種族の先祖返り。先代の頃から『ノルンズダイн』の常連であり、アサヒのことも気にかけている。

有能なギルドマスターではあるが、私生活（主に性的な面）での揉め事が絶えることはなく、親しい者からは苦言を呈されることもしばしば。

### 『淫蕩』の運命に翻弄されし者

淫蕩：みだらな享樂にふけるさま。



Illustrator : nullQ

「言っただろう、同胞。動揺してこの目も見えてねえのか？  
それとも俺がいい男だから見惚れたか？」

# Frederick

## フレデリック

年齢 35歳 種族 人間

瞳の色 緑

職業 騎士団長

武器 大剣

身長 190cm 体重 110kg

持ち物 人間最大

苦手 ぴっちりとした服

史上最年少で騎士団長となった、騎士としての能力や人柄において全てが申し分ない人物。

名門貴族の長子だが、実家との折り合いは悪く、個人的な問題も抱えているため、その表情は常に硬い。

特に『食』に関しては強いトラウマを抱えており、食事を栄養補給のための行為だという割り切った考えを持っている。グラントとは古い友人であり、その縁で『ノルンズダイн』の常連となる。

### 『高潔』の運命を持ちし者

高潔：精神が気高く潔いこと。



Illustrator : 一十

「私にはその『きちんとした食事』というものが  
正直よくわからないのだ」

# Giulio

## ジュリオ

年齢 24歳 種族 人間

瞳の色 緑

職業 冒険者

武器 片手斧

身長 178cm 体重 80kg

チン長 「小さくねえ！周りがデカすぎるだけだ！」

苦手 集合体

アサヒの幼馴染であり、親友。冒険者ギルドの若手有望株。戦いを何より尊きものとする外の部族の出身であり、現在は修行の最中。誰にでも気安く、軽薄な言動が目立つが情には厚い。モテを常に意識しており、グラントとルーカスをモテの大先輩として慕っている。チャライ言動から恋愛経験が豊富そうに見えるが実は……。



「だってよお……魅力的な相手を口説かないのは失礼に当たるだろ？」

### 『探求』の運命を歩む者

探求：真理を見つけるために、追究すること。

Illustrator：有馬瓶

# Lucas

## ルーカス

年齢 28歳 種族 人間

瞳の色 灰青

職業 冒険者

武器 長銃

身長 185cm 体重 88kg

好物 アサヒが作る料理

苦手 陽の当たる場所

幼い頃にアサヒの両親に引き取られた、アサヒとは血の繋がらない兄弟。冒険者としての腕前は、アスガルド内でもグラントと並ぶほどで周囲からは一目おかれている。無口というわけではないが感情表現があまり得意ではない、というより元々感情の揺れが少ない。義弟であるアサヒにだけは、ぎこちない笑顔を見せる。



「そうでなくては、いざという時にアサヒを守ることまでできないしな」

### 『終焉』の運命に対峙せし者

終焉：全てが終わりを迎えること。

Illustrator：はいき

# Shida

## シドウ



年齢 32歳 種族 獣人(牛)

瞳の色 黒

職業 元暗殺者

武器 刀

身長 199cm 体重 125kg

すき あるじに頭を撫でられること

きらい フレデリク

行き倒れているところをアサヒに助けられ、『ノルンズダイン』二階の下宿人となった牛の獣人。過去の記憶を失っており、非常に謎の多い人物。その風貌に反して、どこか幼く常識や倫理観が欠如した言動を数多く見せる。自分を救ってくれたアサヒを『主』として認識している。

「俺、弱くならない。弱くなるときは、俺、死ぬとき。強くない俺は、いらぬから」

### 『呪縛』の運命を背負いし者

呪縛：行動の制約をかけるもの。

Illustrator：かうべる牛頭夫

# Orfeo

## オルフェオ

年齢 40歳 種族 獣人(虎)

瞳の色 赤紫

職業 マフィアのボス

武器 短銃

身長 203cm 体重 150kg

大切なもの 仲間

苦手 傷ついた子供



「全く、気に入ったモンばかりが掌からすり抜けていきやがる」

スラムを仕切る二大組織の一つ『ラズグリーズ』のボス。獣人らしく戦闘能力は高いが、どちらかというとならぬ経済マフィアの側面が強い。性格は豪放磊落。強面だが、子供好き。裏の世界に身を置いているが、強者が弱者を一方的に虐げ搾取することを良しとしないため、スラムの住民からの信頼は厚い。

### 『希求』の運命に囚われし者

希求：強く願うこと。

Illustrator：Taro Bandit

# Murmur

ムルムル

年齢 ??? 種族 ムルムル

瞳の色 

職業 ペット

武器 つぶらな瞳

身長  体重 

好物 アサヒの作る料理

苦手 ムルっ！



アサヒの家で古くから飼われている謎の生き物。

ムルムルという名前であり、ムルムルという存在でもある。

アサヒの作る料理が好きでアサヒのことも好き。

ご飯がアサヒの手作りじゃない時は、ちょっと拗ねる。

アサヒの作った料理をくれるかしてくれないかが好き嫌いの基準であり、常連客もムルムルの中でランク付けがされている。

Illustrator：はいき

「ムル……ムルムルッ！」

# Laplace

ラプラス

年齢 いくつに見える？ 😊

種族 内緒だって 😏

瞳の色 目え見て話すのやめてくれない？

職業 働いたら負け 😬

武器 握ってみる？ 😊

身長 173cm 体重 70kg

趣味 ホントに興味ある？ 😬

苦手 でっけえ目玉の獣かな～



俺の『顔』結構好きだろ」

「んあ？なんでそんな反応するんだ？だってお前、

閉じた都市である『アスガルド』に突如として姿を表した吟遊詩人を自称する青年。

神出鬼没の存在で、アサヒの前に姿を見せては意味ありげな言葉を残しては姿を消してしまう。

ただ、アサヒの作る料理は気に入っているらしく、日々毒舌を撒き散らしながらも『ノルンズダイン』の常連となる。

## の運命

運命？んなもん知～らね 😊

Illustrator：一十



## 『Prequel』

「もう本当にうんざりだわ……」

そこは、不思議な場所だった。

明るくもあり、暗くもある。

空間を形どったかと思えば、すぐに霧散する。

言葉を発した者の存在感もあまりに希薄で、そこに本当に存在しているのかすらわからない。

「別に完璧な世界である必要はなかったのよ」

その不思議な人物は、小さなため息をこぼす。

それは、この場にふさわしくない人間らしい行い。

「ただ、あの子達がどんな物語を紡ぐのか、運命をどう生きるのか……それが見たかっただけなのに……」

また空間が歪む。

「停滞……斜陽の世界……神が見捨てた地……なんとでも呼ぶといいわ。私の興味は、もうそこにはないのだから……」

何かを思い出すように、その人物は己の周りにいくつかの光を呼び寄せる。

「『高潔』」

「あら……、この子は……。懐かしいわね、まだそれを継ぐ子がいたの……。そうね、あの頃はあの子達もいて……」

その人物のあまり変わらぬ表情に浮かぶのは、明らかな郷愁。

「そう、それならば……。この子が最後の……ええっと、なんて言ったかしら？ 以前、あの人から聞いた……。確かパンドラの箱。数多の厄災が詰められた箱とその中に最後に残っていたもの。まさに、今のこの世界には相応しいわね」

まるで玩具を与えられた子のように、その人物の瞳に喜々とした光が宿る。

「『運命の女神』の創り出したこの世界では、誰しもが『運命』を持って生まれゆく。だけど、あなたには与えない」

「運命の女神」の手のひらの上で強い輝きを放つ光は、薄く透明な膜でその全体を覆われる。

そして、光は他の光達の元へと戻っていく。

「随分と生まれ出る前から強いつながりを持つ子達がいるわね……」

強い輝きの近くに寄り添うような二つの光に『運命の女神』は興味深そうに視線を向ける。

「『無垢』に『探求』……そう。あなた達はこの子と縁を持つ子なのかしら？」

光はその問いかけに応えることはない。

光が一つ、淡い緑色へと変わる。

「『淫蕩』、『義侠』」

その言葉に応じるように、今度は光が二つその色を変えた。

「『希求』、『破戒』、『叡智』に『呪縛』……」

呼びかけに応えるように、次々と光はその色を変えていく。

「そして、『終焉』」

その言葉と同時にすべての光は色を喪う。

「私が望んだわけではないのに、この刻にこれほど強い運命を持つものが集まるなんて……本当にもつたいない。……だけど、これもまた運命なのかしら……」

その言葉は自嘲となり、空間を不規則に軋ませる。

「その魂の一つ一つが稀代の英雄となってもおかしくはないというのに、結局何も変わらない。『終焉』すらもその役割を果たすのかどうかわからない。本当につまらないわ」

今度ははっきりと示された感情に、その空間はまるでガラス細工のように砕け散った。

闇が支配する空間の中で、無数の小さな光の粒がゆつくりと上から下へ下から上へと落ちてゆく。

その中に一つ、他のものより強い輝きをもつ光の存在にその人物はふと気づく。

だが、『運命の女神』はどこか満足気に、そして悲しげに言葉を紡ぐ。

「定められし『運命』を持たない『運命の女神』の子よ。あなたの選択を、あなたが紡ぐ『運命』の物語を『運命の女神』に示さない」

その言葉に応じるように周囲に色を持たない空間が再び生まれる。

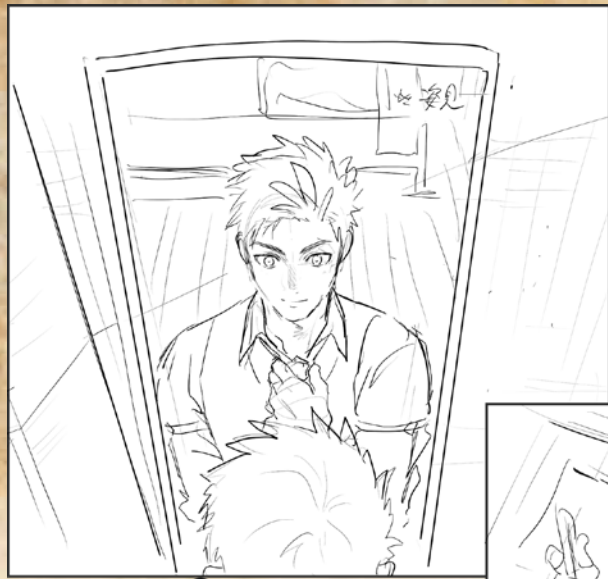
「どんな『運命』を選ぼうと、それはあなたの自由。いいえ、選ばなくても構わない。私はここでそれを見させていたたくわ。人類に遺された唯一の『希望』の行末を」

何もない空間に現れたのは、その場を埋め尽くすほどの数多の映像。

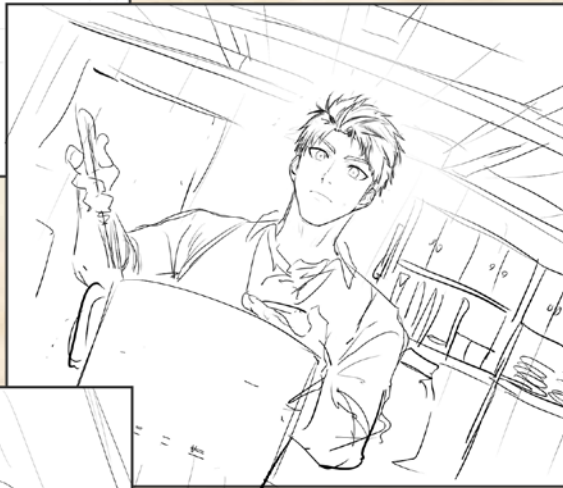
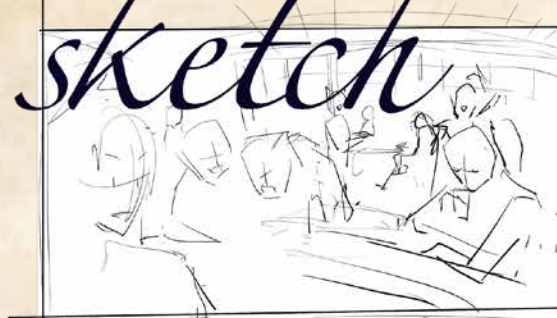
「それが、この世界の『運命』なのだから」

end.

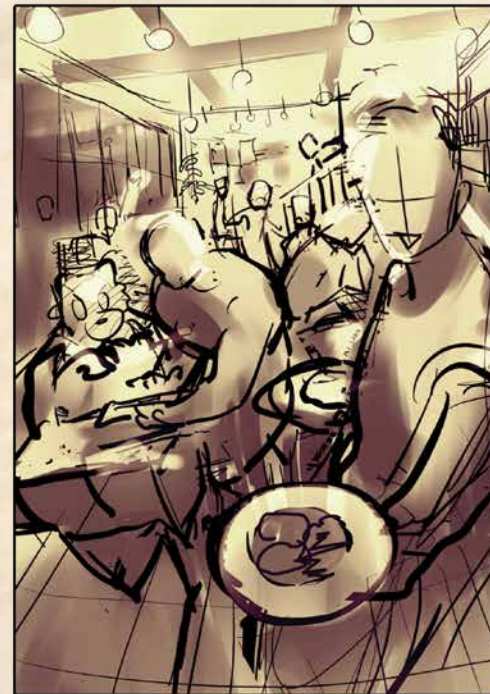
終焉

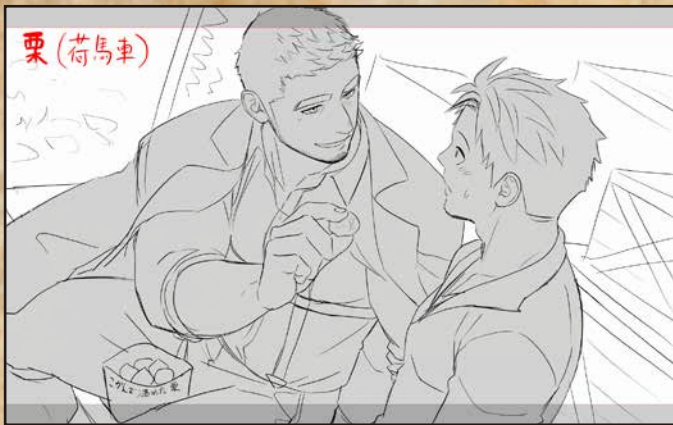


sketch



*[Handwritten signature]*





かうべる



いほ  
ツツ



# CREDITS

**企画** HIC\*(はいき/一十/かうべる牛頭夫/茶柱一号)

**イラスト** 有馬瓶/一十/かうべる牛頭夫/Taro Bandit  
nullQ/はいき/むに

**シナリオ** 雨森玉虫/風祭おまる/sada/Sukuné/茶柱一号

**背景** asada.31/かたらな **BGM** 幹太/puku2

**コンセプトアート** chappy

**タイトルロゴ** ソーイチ **UI・スクリプト** 大山田制作所

**HP** Δ/いのり **動画制作** Δ **メインスクリプト** さくた

**デザイン・シナリオ監修** HIC\*

**Special Thanks** yusa

## 2024年夏発売予定！！

サークル



発行日 | R5/12/30

印刷 | gr@phic

無断転載、複写、複製、配布  
などの行為を固く禁じます。

HP



X



支援サイト



✉ [hichigames@gmail.com](mailto:hichigames@gmail.com)

PIXIV  
FANBOX